



2024年6月24日

報道機関 各位

国立大学法人東北大学

ウクライナ戦争とロシア少数民族 プーチン政権による動員令後、国外脱出したロシア少数民族に 対するモンゴル国での支援および庇護希望者についての報告

【発表のポイント】

- 2022年9月以降のプーチン政権による動員令以降、徴兵を避けるためのロシアからの脱出者が相次いでいます。そのなかで、ロシア少数民族のモンゴルへの大量脱出は、東北アジア地域の民族間関係やアイデンティティに大きな影響をおよぼすと考えられる現象です。
- 本報告ではモンゴルと言語・文化・歴史を共有してきた少数民族ブリヤート人に着目しました。ロシア国からモンゴルへ出国したブリヤート人は、モンゴル国において三つの異なる立場から歓待と支援を受けることができたことを明らかにしました。
- その一方で、モンゴル社会ではブリヤート人とモンゴルとの歴史的・言語的つながりに対する様々な共感が発生しましたが、多くのブリヤート人にモンゴルでの永住を決意させていないことがわかりました。モンゴルの支援者とロシア少数民族の庇護希望者の関係は多面的かつ複雑です。

【概要】

東北大学東北アジア研究センターの高倉浩樹教授、日本学術振興会・堀内香里特別研究員、オーストラリア・クイーンズランド大学 Byambajav Dalaibuyan 研究員からなる国際共同チームは、ウクライナ戦争によるロシア少数民族の影響とモンゴル国での受入状況を解明しました。

2022年9月以降のプーチン政権による動員令以降、少数民族ブリヤート人はモンゴル国において歓待と支援を受けることができた一方で、言語をはじめ文化や社会の違いに直面し、モンゴル国への永住を決意してはいないことがわかりました。モンゴル国における支援者とロシア少数民族の庇護希望者の関係は多面的かつ複雑であり、さらなる調査研究が必要と考えられます。

この報告はドイツの Kulturstiftung Sibirie 社の学術図書『A Fractured

North - Facing Dilemmas』(edited by Erich Kasten, Igor Krupnik, Gail Fondahl) の所収論文として刊行され、ノルウェー国ブドー市で開催された第 11 回国際北極社会科学会議 (ICASS) において 2024 年 6 月 3 日に出版報告が行われました。

【用語解説】

ブリヤート人：ロシアのバイカル湖周辺を中心に、モンゴルや中国などにも暮らす民族。彼らは、遊牧と仏教信仰の点でモンゴル人と文化を共有し、ブリヤート語とモンゴル語とは互いに理解し合えるほど近接しています。

【詳細な説明】

研究の背景

2022 年 2 月のロシアによるウクライナ侵攻およびその後のロシア・ウクライナ戦争は、世界の地政学的秩序を大きく変え、関係国および関連国の人々の社会政治的行動や認識に影響を与えました。ウクライナ難民は 600-1000 万人といわれ、第二次世界大戦後のヨーロッパにおいて最多の難民問題が発生しています。

この現象については様々な人文社会科学の調査が行われています。一方、ロシア政府が 2022 年 9 月に出した動員令は、徴兵を避けるためにロシア国民の国外脱出をもたらしました。ロシアからの庇護希望者は IT 技術者が多く、情報産業の発展への否定的影響や頭脳流出に連なると指摘されています。またジョージアへの避難者は現地から歓迎と敵意の双方で受け止められていると報告されています。ロシアからの庇護希望者についての調査研究は始まったばかりであり、あらゆる方面からの解明が求められています。

今回の報告を行っている著者らのチームは、モンゴルの国境史に関わる専門的知見をもつ歴史学者、モンゴルで幅広く社会調査をおこなってきた社会学者、フィールドワークに基づくシベリア先住民の歴史・文化を調査してきた人類学者です。シベリア研究・モンゴル研究の立場からすると、今回のロシア国からの大量脱出は東北アジア地域の民族間関係やアイデンティティに大きな影響をおよぼすと考えられる現象であります。そのため、ロシアからモンゴル国への避難者にあつて、先住民・少数民族に焦点をあてて調査研究をおこない、この課題に対する貢献を試みることとなりました。

今回の取り組み

本論文における問いは、(a)動員令後、ロシアの少数民族であるブリヤート人はどのようにモンゴルに移住してきたのか、(b)モンゴル社会はこれらの移住者をどのように受け入れてきたのか、(c)ブリヤート人にとって避難経験はどのような生活であったのか＝彼らはモンゴルでの生活にどのように適応しているのか、であります。これらの問いを通して、(d)戦争がこれらのモンゴル人とブリヤート人の民族間関係・アイデンティティに与えた影響を評価することを目

的としています。

本報告に用いられた主要な調査資料は、2023年6月および10月において、モンゴル国ウランバートルでの現地調査およびモンゴル国境地帯にあってはオンライン面談によって収集されました。調査対象は、モンゴル国における支援者およびロシアの少数民族出身の庇護希望者等です。調査方法は面談および参与観察で、調査においてはモンゴル語・ロシア語・英語・日本語が用いられました。協力を得られたのは52名の話者でした。

その結果、以下の点を解明することができました。

(1) 動員令後の避難

2022年9月21日以降の動員令以降、モンゴル国に庇護希望を求めたロシアの少数民族の多くはブリヤート人であったが、モンゴル言語のカリムイク人、テュルク系のトゥバ人も含まれていました。徴兵を避けるためにロシアからモンゴルへ南下してきたブリヤート人らは、モンゴル国において歓待と支援を受けることができました。

(2) モンゴル側の受け止め

この現象はモンゴル国の政府、市民社会、個人に大きな影響を与えました。モンゴル側でブリヤート人を支援する立場は三つに分けられます。第一に、汎モンゴル主義者、第二にモンゴル国内に暮らしてきたモンゴル系ブリヤート人による慎重な同胞主義、第三に困っている人に対する広範な個人の共感です。いずれの立場も自然発生的に形成され、そのつながりは個人レベルに限定されており、制度化されておらず分散的であります。またそれらはモンゴル政府がロシア、中国、日本、西側諸国の間で慎重に力を均衡させていたポスト社会主義後のモンゴルの地政学を反映しています。

(3) 避難先での生活

ブリヤート人がモンゴルを避難先として選んだのは、地理的に近かったこと、あるいは国境を越えるルートが自らの親族関係を含む地域の歴史に関わっていたからでした。多くのブリヤート人の第一言語はロシア語であったため、彼らはモンゴル国において言語の困難に直面し、ブリヤート語とモンゴル語の歴史的・言語学的なつながりを自省するに至りました。ブリヤート語を話す人はモンゴルでは適応しやすい。しかし、そのような人々でさえ、文化や社会が故郷のロシアとは違うという強い感覚を持っています。この違いは、ロシアのブリヤート人と汎モンゴル主義者、そしてモンゴル系ブリヤート同胞との間のコミュニケーションにギャップを生んでいます。

(4) まとめ

戦争に関連したロシアとモンゴルの国境を越えた動きは、ブリヤート人とモンゴルの歴史的・言語的つながりに対する様々な共感をモンゴル社会に発生させましたが、ブリヤート人の移住者を深く魅了したわけではなく、永住を決意させてはいないのが現状です。モンゴル国における支援者とロシア少数民族の庇護希望者の関係は多面的かつ複雑であり、さらなる調査研究が必要であると思われます。

<国際的連携>

本論文が掲載された学術図書『A Fractured North: Facing Dilemmas』は、ロシアによるウクライナ侵攻後の状況を受けて緊急に編まれたものです。編者のErich Kasten (博物館学)・Igor Krupnik (人類学)・Gail Fondahl (地理学)は、北極の社会科学的研究における国際的な牽引者として知られています。彼らはロシア・ウクライナ戦争が北極・北方社会における分断を生み出したことを危惧し、その分断の影響を把握し、その課題に対処する戦略を探り、戦争が生み出した敵意を理解する場を提供することが本書の制作意図だと述べています。東北大学の高倉浩樹教授は、この編者たちから本書への寄稿の可能性について照会を受け、その後に原稿をとりまとめて投稿し、査読を経て受理されました。この学術図書はドイツの Kulturstiftung Sibirie 社から刊行されたものであり、第 11 回国際北極社会科学会議 (ICASS ; ノルウェー国ブドー市 5 月 29 日から 6 月 3 日) において正式な出版報告が行われました。この学会は北極の社会科学的研究において最大の学会であり、国際北極科学委員会 (IASC) や北極評議会 (AC) とも連携しています。



図 1. 第 11 回国際北極社会科学会議での出版報告

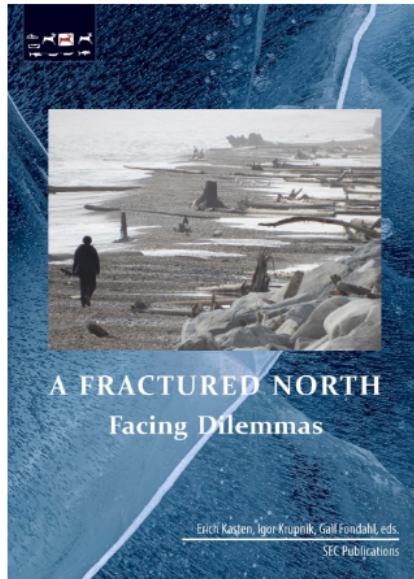


図 2. 本論文が所収された学術図書の書影

【謝辞】この報告をまとめるにあたっては、文科省補助事業・北極研究加速事業（JPMXD1420318865）、人間文化研究機構グローバル地域研究事業東ユーラシア研究プロジェクト、東北大学東北アジア研究センターから支援を受けました。

【論文情報】

著者：Hiroki Takakura, Kaori Horiuchi, Dalaibuyan Bymabajav

論文名：Unrequited compassion across the border: Mongolians' support for the Russian-Buryat Exodus after Mobilization

所収図書：Erich Kasten, Igor Krupnik, Gail Fondahl (eds.) A Fractured North - Facing Dilemmas. Fürstenberg/Havel: Kulturstiftung Sibirien, pp.175-190.

<https://dh-north.org/publikationen/a-fractured-north-facing-dilemmas/en>

【問い合わせ先】

（研究に関すること）

東北大学東北アジア研究センター

教授 高倉浩樹

TEL: 022-795-7572

Email: hiroki.takakura.a8*tohoku.ac.jp

（報道に関すること）

東北大学東北アジア研究センター

事務室 小山田浩明

TEL: 022-795-6009

Email: asijimu * grp.tohoku.ac.jp

*を@に置き換えてください